芦屋市議会議員

川上あさえ新聞

Vol.17

2024年第1回
定例会報告

芦屋市議会
〒659-8501
芦屋市精道町 7-6

NeXT 芦屋

当初予算

教育改革に本腰

高島市長による初の当初予算は一般会計で総額４６９億円６４００万円（前年度比７・４％増）となりました。市長が公約に掲げた教育については先進的な改革に着手、市民からの要望が高まりながらも、見送られてきた福祉・子育て事業も予算化を図るなどスピード感を印象づけました。これら政策を評価し、予算案に賛成、可決しました。

教育改革の重点に据えたのは個別最適化による「ちょうどの学び」です。一人ひとりの個性や関心、理解度を踏まえた教育を実現するため、有識者の助言や先進自治体の取り組みを研究し、教職員のスキルアップや授業の質を高めることが狙いです。

また、児童生徒の「心のケア」にも力点を置きます。市立小中学校の全校に心のケアを支援する職員を配置。不登校傾向のある児童生徒へのアプローチや学習補助への対応を行います。

個性に合わせ「ちょうどの学び」

表面上は見えない「いじめ問題」への対応策として、子供たちの気持ちや心の健康度をデータ化して未然防止を図る「いじめ実態把握アプリ」を試験導入、弁護士によるいじめ防止授業も実施します。

要望が高かった市立小中学校体育館への空調設備の設置ですが２０２５年度までに全校整備を進めます。体育館は災害時の避難所としても活用が見込まれ、酷暑日の増加に伴い部活動にも影響が出ていることから早期の決断に至りました。

その他の新規・拡充事業

【教育・子育て・福祉】

教育環境の整備に期待がかかる

■大学等入学支援基金事業
→所得に応じ支給対象を拡大：　７７５万円

■保育システム導入
→保護者がスマホで出欠連絡：　２２１万円

■高齢者支援センター増設
→高齢人口が多い圏域に増設：１６０１万円

中学部活動３種新設

地域移行スタート

生徒減少や学校の働き方改革を踏まえ、早期実施を求めてきた中学部活動の地域移行がスタートします。教職員に代わり地域指導者が休日の部活動を担うことになり、既存の部活動にはない新たな部活動として「バドミントン」「ダブルダッチ」「フラッグフットボール」を新設します。

教職員の授業準備や生徒と向き合う時間を確保にもつながり、生徒にとって魅力的な部活動が誕生すれば、生涯学習や市民活動の発展にも寄与するはずです。

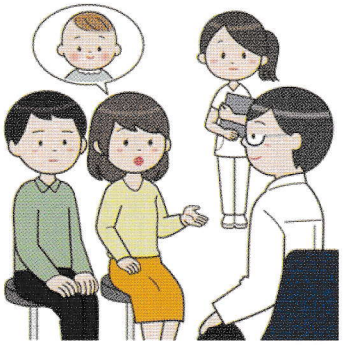
◇新教育長が就任

福岡憲助教育長の任期満了を受け、学校教育担当部長の野村大祐氏が新たな教育長として就任しました。議会不同意により欠員となっていた市教育委員には市民団体代表の三宅真理子氏が就任しました。

不妊治療助成も拡充

産後ケア事業

妊娠から子育て期までの支援を行う「産後ケア事業」について、本市では「宿泊型」と「通所型」は実施されてきたものの、助産師が自宅訪問を行う「訪問型」はありませんでした。「産後うつ」が社会問題化し、訪問型を求めてきましたが、実施が決まりました。自己負担額も軽減、対象児も生後４か月以内から１歳以内に拡大しました。



妊娠を望むカップルが増える中、負担を軽減する政策の実施が決まった

不妊治療の検査助成事業も始まります。厚生労働省によると２０２１年度に不妊検査や治療を受けた夫婦は４・４組に１組。少子化の中、妊娠を望むカップルは増加していますが、経済的な負担は大きいのが現状です。

これを受け、５万円を上限として不妊治療として医療保険が適用されない費用の７割を助成します。

現場目線で市政改革

元産経新聞記者

ごあいさつ

第1回定例会では新年度予算案の議会審査が行われました。コロナ禍を脱したことで、新たな時代を見据えた議論が交わされ、懸案だったJR芦屋駅南地区再開発事業の特定建築者公募も開始されます。今回は予算特別委員会での議論を中心に報告します。

山手地区で実証運行

「デマンド交通」導入へ

「最寄りの駅やバス停が遠い」「坂道が急で移動が大変」「ドライバー不足の影響でバスが減便になった」といった地域が抱える交通課題の解決に向けて、新たな交通システムの導入が始まります。

今年度から事前予約により車両を運行する「デマンド交通」の実証運行を交通不便地区である山手地区で行う方針です。

デマンド交通とは決まった時間に決まったルートを運行する路線バスや自由に乗降ができるタクシーとは異なり、利用登録をしたうえで電話やインターネットなどで予約、乗り合いにより移動するシステムです。神戸市では急な坂道のある垂水区や灘区の住宅地で導入されています。

交通不便地区の解消は住民の外出機会創出につながり、健康維持にも寄与します。長年の課題解決に向け、早期導入を目指します。

乗り合い型の車両運行が検討されている（イメージ写真）

デマンド交通

利用者の予約に応じて運行する地域公共交通。従来のバスと違って運行ダイヤやルートが決まっておらず、一般的には電話やインターネット予約に応じ、希望の時間帯に車両が指定された地点に迎えに来て、目的地まで移動する。交通不便地域の解消策や路線バスの減便対策として導入する自治体が増えている。

打出公園リニューアル

作家、村上春樹氏のデビュー作「風の歌を聴け」に登場する打出公園と打出教育文化センター（愛称：うちぶん）など周辺エリアがリニューアルされました。

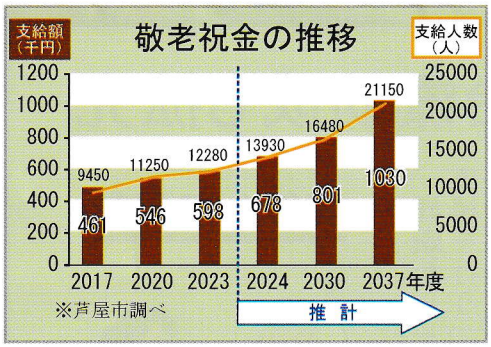
公園に長年設置されていた「猿のオリ」は撤去されましたが、「お猿公園」として親しまれてきたことから、オリの一部を活用したモニュメントが設置されています。

センター内には、図書館打出分室があり自動図書貸出機を導入、さらに不登校の児童生徒が通う「のびのび学級」もあります。のびのび学級では臨床心理士を配置し、学校復帰や社会的な自立をサポートします。

公園と一体整備された打出教育文化センター

敬老祝金を廃止

高齢者全体にサービス



88歳で2万円、100歳で3万円を毎年9月1日の基準日に支給する敬老祝金制度ですが、高齢者人口の増加による社会変化に対応するため今年度からの廃止が決まりました。

昨年度の支給額は122８万円でしたが、支給額は右肩上がりで、2025年度には団塊の世代が後期高齢者になり、持続可能な高齢者支援に向けて見直しが必要と判断しました。

今後は高齢者生活支援センター増設や介護人材育成支援、認知症対策などに充当します。

ちなみに芦屋市を除く近隣の各自治体（神戸市、尼崎市、西宮市、伊丹市、宝塚市、川西市、三田市）では敬老祝金制度はすでに廃止しています。

敬老祝金のように個人に対する支給ではなく、高齢者全体の福祉サービス向上を図るという判断について賛成しました。見直しにより敬老の意識が薄れることがないよう、市の取り組みに注視してまいります。

編集後記

今年2月、石川県に住む寺越友枝さん（92）が亡くなった。その息子、武志さんは13歳だった1963年、能登半島沖で漁に出掛けたまま行方不明になった。24年後、北朝鮮からの手紙で生きていることが判明するが、武志さんは「親が恋しかったが、今の自分には北朝鮮に子供がいる」として真相を語ることはなかった。友枝さんは生前、「武志の近くにいたいので、遺灰は海にまいてほしい」と語っていた。北朝鮮による日本人拉致問題だが、封印された事実もある。

【川上朝栄（かわかみあさえ）プロフィル】

1973年12月生まれ、50歳。妻と娘2人の4人家族。岡山白陵高を経て学習院大経済学部卒。産経新聞に記者として入社、内閣府など政治経済の現場を取材。著書に「関西企業大研究」「達人の世界」。社会福祉法人理事。社会福祉主事、介護職員初任者。趣味はテニス、スキー、高校野球観戦。

Facebook

X（旧Twitter）

e-mail：kawakamiasae@gmail.com　HP：https://kawakami-asae.com